

第107回

全国高校野球

青森大会

第7日

4強 まず2校

光星圧倒 12安打13盗塁

木造 8安打も2得点

【評】八学光星が高い毎回の計12安打。積極的させた。投げては3投手打撃力と機動力を発揮しな走塁で、三回を除く毎回の計13盗塁を全て成功。許さなかった。五回を除いて一回の計13盗塁を全て成功。許さなかった。

【八学光星―木造】4回を無失点に抑えた八学光星の先発・柴田

木造は8安打を放つも得点につながらず、七回に内野ゴロの間に2点を返すのが精いっぱいだった。



柴田 緩急で凡打の山

八学光星の背番号20が意地を見せた。先発の左腕・柴田は4回を被安打4、4奪三振、無失点と力投し、きっちり試合をつくった。仲井監督は「万全の調整で登板させた。しっかりとしたピッチングをしてくれた」とたたえた。

「三振は取れたらラッキー」と、この日は持ち前の打たせて取る投球を心がけた。四回、安打に味方の失策が重なり2死満塁のピンチを迎えても「焦りはなく平に仕留め「ピンチを乗り切ったことが自信になった」。食べた」と、体重を10kg増やしたことが自信になった。昨秋の東北大会でエースやすなど技術面、体力面とナンバーを背負ったが、登壇に磨きをかけたが、今春

4回無失点

の県大会で思うように調子が上がらず、先月の東北大会はメンバー外だった。それでも「悔しさはもうない。背番号をもらったからにはやるしかない」と最後の夏に力をつける思いは人一倍。甲子園まであと2勝。制球とボールの切れ武器に、チームを勢いつけるピッチングをする」と自らを奮い立たせた。(棟方好華)



6回表、八学光星1死二、三塁、田中颯が右前に2点適時打を放ち9-0。投手・加藤、捕手・高橋

東奥日報社提供

この画像は当該ページに限って東奥日報社が利用を許諾したものです